

A
仙台市立片平丁小学校

B
仙台市立錦ヶ丘小学校

C
仙台市立広瀬中学校

D
宮城教育大学附属特別支援学校

E
東北学院中学校・高等学校

F
せんだいメディアテーク

G
東北学院大学土樋キャンパス・
ホーイ記念館

★
ホテルレオパレス仙台

8

仙台市立片平丁小学校

かたひらちょう

本校は、仙台市の中心部に位置し、創立145年目を迎える歴史ある学校です。卒業生には赤痢菌を発見した志賀潔先生をはじめ、多くの著名人が名を連ねています。町中にありながら、広瀬川や青葉山を近くに臨み、自然豊かな環境の中、子供たちはのびのびと学習に取り組んでいます。さらに、学校・地域・PTAのつながりが強く、夏祭りやもちつき大会などの地域行事も活発に行われ、大変協力的です。「志を持ち、心豊かに、たくましく生きる子どもの育成」を学校目標にかかげ、職員一丸となって日々の教育活動を進めています。

●受付 13:00 ～ ／ ●公開授業 13:30 ～ 14:15

学年・組	教科等	単元名・題材名	教材名・番組名・ICT 機器等	授業者名
1 年 3 組	道徳	ツムちゃんのいたかったこと	NHK for School『新・ざわざわ森のがんこちゃん』	千葉 愛
2 年 1 組	国語	絵を見てお話を作ろう	実物投影機	山本十和子
3 年 2 組	算数	円と球	NHK for School『さんすう犬ワン』	日野 勝
4 年 2 組	社会	住みよいくらしをつくる～ごみのしゅりと利用～	実物投影機、タブレット端末	坂内 陽香
5 年 2 組	社会	これからの食料生産とわたしたち	NHK for School『未来広告ジャパン！』	木村 慎吾
6 年 2 組	社会	明治の国づくりを進めた人々	タブレット端末、電子黒板	角田 麗圭

公開授業後の取り組み

●事後検討会 14:35 ～ 15:25 ／ ●講演会 15:45 ～ 16:45 講師：黒上晴夫(関西大学)

仙台市立錦ヶ丘小学校

開校3年目である本校は、「たくましくしなやかに生きる子ども」を教育目標に掲げ、開校時から基本的な学習習慣の確立や学習規律の徹底、「分かる喜び」「できる喜び」「学ぶ楽しさ」あふれる授業を目指して授業づくりに取り組んでいます。研究主題を「磨き合い高め合う児童の育成～情報活用に着目した 主体的・対話的で深い学びを生み出す授業づくり～」とし、ICT機器や放送番組を効果的に活用して、子供たちが自ら問いを見付け、仲間と力を合わせながら課題解決に取り組む学習活動を工夫しています。

●受付 11:00 ～ ／ ●公開授業Ⅰ 11:30 ～ 12:15 公開授業Ⅱ 13:05 ～ 13:50

	学年・組	教科等	単元名・題材名	教材名・番組名・ICT 機器等	授業者名
公開授業Ⅰ	1 年 1 組	道徳	やるときゃやらなきゃ (勤勉努力)	NHK for School『銀河銭湯パンタくん』, 実物投影機	中廣 和恵
	1 年 5 組	学級活動	そうじのしかたをかんがえよう	NHK for School『で～きた』, タブレット端末	片倉 悠
	2 年 3 組	国語	はんたいのいみのことば	NHK for School『ことばドリル』	星 一平
	3 年 1 組	社会	工場の仕事	NHK for School『知ったく地図帳』『コノマチ☆リサーチ』, タブレット端末	村上 重樹
	4 年 5 組	理科	物のせいしつを調べよう／物の体積と温度	NHK for School『ふしぎがいっぱい』, タブレット端末	佐藤明日香
	5 年 2 組	道徳	動物と生きていくためにはどうしたらいいんだろう？ (生命尊重)	NHK for School『オン・マイ・ウェイ！』	天野 倫子
公開授業Ⅱ	1 年 3 組	国語	わたしのはっけん	NHK for School『ことばドリル』, タブレット端末	本田 力哉
	2 年 2 組	道徳	銭湯先生はおせっかい (親切・思いやり)	NHK for School『銀河銭湯パンタくん』	佐々木由美子
	3 年 5 組	理科	風やゴムで動かそう	NHK for School『ふしぎがいっぱい』	三浦 裕介
	4 年 3 組	国語	クラスで話し合おう	NHK for School『お伝と伝じろう』	戸村 汐里
	5 年 1 組	総合的な学習の時間	日本のお米参上！～世界中へ広めよう！～	NHK for School『しまった！』, タブレット端末	櫻井 和彌
	6 年 4 組	社会	世界に歩み出した日本	NHK for School『歴史にドキリ』, タブレット端末	小座間祐介

公開授業後の取り組み

●事後検討会 14:25 ～ 15:10 ／ ●講演会 15:20 ～ 16:20 講師：堀田博史(園田学園女子大学)

仙台市立広瀬中学校

本校は、仙台市西部に位置し、生徒数1178名36学級の東北屈指の大規模校であり、開校70周年を迎える歴史ある学校でもあります。多方面にわたって活躍する生徒が多く、特に文化・体育的分野において優秀な成績を収めています。近年生徒数が急増し、平成31年4月には分離し新設校開校の予定です。主体的・対話的で深い学びを目指す授業の工夫の一端としてICT機器の活用を試み、宮城教育大学との共同研究や仙台市教育センター等の支援によりICT環境を整え、全職員で研修を積みながら教育活動を進めています。

●受付 13:00 ～ ／ ●公開授業 13:30 ～ 14:20

学年・組	教科等	単元名・題材名	教材名・番組名・ICT 機器等	授業者名
1 年 4 組	社会	世界の諸地域～アフリカ州～	NHK for School『10min. ボックス 地理』など タブレット端末	齋藤 純
1 年 10 組	技術	情報処理の手順とプログラム	NHK for School『Why!? プログラミング』, タブレット端末	鈴木 康洋
2 年 9 組	理科	動物の分類	NHK for School『10min. ボックス 理科 2 分野』など タブレット端末	小野 修平

公開授業後の取り組み

●事後検討会 14:35 ～ 15:20 ／ ●講演会 15:40 ～ 16:45 講師：安藤明伸(宮城教育大学)

宮城教育大学附属特別支援学校

本校は、宮城教育大学のキャンパス内にあり、主に知的な発達の遅れのある児童生徒を対象とした特別支援学校です。小学部・中学部・高等部までの一貫教育を通して、一人一人の発達に応じた指導を大切にし、社会生活に必要な知識や技能・態度を、可能な限り身に付けさせることを目的としています。さらに、国立大学法人宮城教育大学の附属校として、「教育実習生の指導をする。」「地域学校への奉仕・協力をする。」「教育の理念及び実践を検証する。」ことなどを任務としています。

全国生涯学習ネットワークフォーラム2012を開催し、複数の企業から機器貸与等の支援を受けて、タブレット端末や電子黒板などのICT機器が充実しています。ICTの活用を含め、児童生徒一人一人の学びを育むために有効な教育活動の在り方を模索しています。

●受付 13:00 ～ ／ ●公開授業 13:30 ～ 14:10

学年・組	教科等	単元名・題材名	教材名・番組名・ICT 機器等	授業者名
1・2 年 ふたば学級	特別活動	なかよくあそぼう	NHK for School『ストレッチマン V』 電子黒板、タブレット端末	鈴木真亀子 松本 若奈
3・4 年 わかば学級	特別活動	附属小学校と交流しよう	NHK for School『ストレッチマン V』 タブレット端末、テレビ電話	斎藤 有紀 秋山 史
5・6 年 あおば学級	生活単元 学習	野菜の切り方を知ろう	NHK for School『カテイカ』 電子黒板、タブレット端末	今野 智之 武山 潤子
中学部	音楽	世界の音楽に親しもう	電子黒板	中学部教員 8 名

公開授業後の取り組み

●事後検討会 15:00 ～ 16:00 ／ ●講演会 16:00 ～ 16:45 講師：小林祐紀(茨城大学)

東北学院中学校・高等学校

本校は、キリスト教主義（プロテスタント）の併設型中高一貫校で、県内唯一の男子校です。明治19年、前身の「仙台神学校」の創立から今年で131年の歴史を数えます。全校生徒は約1,600名で、キリスト教に基づく全人教育、併設型中高一貫男子進学教育、持続可能な開発のための教育（ESD）の三点を教育の基本方針としています。平成28年度中学・高校入学生より「ノートPC生徒一人1台環境」を導入し（学年進行で平成30年度導入完成）、併せて、インターネットを利用した教育システムも導入して学習活動が行われています。

●受付 12:30 ～ ／ ●公開授業 13:20 ～ 14:10

学年・組	教科等	単元名・題材名	教材名・番組名・ICT 機器等	授業者名
中学 1年E組	英語	The Restaurant with Many Orders	NHK 高校講座『ベーシック英語』『物語を語ろう！』	太田 学
中学 1年A組	数学	比例と反比例の利用	電子黒板	中村 公彦
中学 2年D組	国語	説得力を高める 哲学的思考のすすめ	NHK for School『しまった！～情報活用スキルアップ～』『考えを整理する』、動画クリップ「思考ツールとは」 ノート PC, 協働学習支援システム, 授業支援システム	高橋 慶行
高校 1年C組	コミュニケーション英語Ⅰ	Mariko Nagai, Super Interpreter	NHK 高校講座『コミュニケーション英語Ⅰ』 「将来の夢について発表しよう」 ノート PC	幡手新一郎
高校 1年J組	国語総合	土佐日記	「3.11 万葉集」（NHK総合テレビ 2014 年放送）	黒澤 佑司
高校 1年H組	数学Ⅰ	三角形の面積	NHK 高校講座『数学Ⅰ』『三角比と図形の計量』 ノート PC	鈴木 浩人
高校 1年I組	数学Ⅱ	高次方程式	ノート PC, 授業支援システム, 電子黒板	高橋 裕一
高校 2年J組	総合的な学習の時間	平和学習	NHK for School 『10min. ボックス公民』『平和主義』 ノート PC	佐藤 悠

公開授業後の取り組み

●事後検討会 14:20 ～ 15:10 ／ ●講演会 15:25 ～ 16:45 講師：稲垣 忠（東北学院大学）

研究交流（生涯学習）

場所：せんだいメディアテーク（7階会議室）

- 施設見学・メディアテーク事業紹介 13:30 ～ 15:00
- 意見交換会 15:00 ～ 15:30
- 全国視聴覚教育連盟理事会・全国公立視聴覚センター連絡協議会総会 15:30～16:30

功労者表彰式・レセプション

場所：ホテルレオパレス仙台（地下1階 イベントホール）

●表彰式・レセプション 18:30 ～

これまで視聴覚教育、放送教育にご尽力いただいた功労者の方々に感謝の気持ちを表します。その後、本大会の参加者及び関係者が一堂に会したレセプションを行います。全国から集まった皆様と情報交換しながら楽しいひとときを過ごしていただきたく、宮城の味もご用意いたします。

ワークショップ・セミナー 9：30～11：10

「アクティブ・ラーニング」「情報活用」「次期学習指導要領」「NHK for School」等のテーマで“参加者もアクティブに”ワークショップ・セミナーを行います。

NO	テーマ	内容	講師
1	タブレット端末×NHK for School 公式アプリ×ジグソー学習で高める情報活用能力	次期学習指導要領では、情報活用能力の育成が1つの鍵になっています。本ワークショップでは、小中学校理科「人の体の仕組み」を対象として、グループで必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況を踏まえて発信・伝達する体験をします。タブレット端末とNHK for School アプリを組み合わせたジグソー学習を模擬授業的に受講していただきます。グループ毎にテーマに分かれ、学習課題に迫ります。	中川 一史 放送大学
2	NHK for School と考える道徳	「特別の教科 道徳」の授業で、NHK for School の道徳番組を資料としてどう活用すれば効果的な「考える道徳」が実現するか、模擬授業を通して探っていきます。模擬授業では、登場人物の心情や道徳的な問題を、どの子もとらえやすいという番組の特性を生かした授業の展開や留意点を共有し、主体的・対話的な深い学びにつながる道徳科の授業の在り方を探りたいと考えています。	堀田 博史 園田学園女子大学
3	(セミナー) 徹底解説！次期学習指導要領と番組・ICT活用の深い関係	次期学習指導要領では、教育活動の「質の向上」が求められ、総則の解説には、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や、深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることなど、具体的な方略が示されています。本セミナーでは、新学習指導要領を深く読み解きながら、放送番組やICTを適切に授業に取り入れる視点や、カリキュラム・マネジメントとの関係などについて確認していきます。	高橋 純 東京学芸大学
4	番組視聴×デジタル思考ツール	情報を集めて、整理・分析し、まとめて発表する活動がこれまでも増して重視されるようになってきました。また、そのような活動をサポートするさまざまなメディアも生まれています。このワークショップでは、「効率的に学習者に情報を与える『番組』から主体的に情報を読み取って、『その他のリソースからの情報』とかけあわせ、自分なりの考えを作り出していく」という流れを、デジタル思考ツールで実現する授業について考えていきます。	黒上 晴夫 関西大学
5	視聴覚ライブラリーが取り組むアクティブな学びの環境づくり	視聴覚センター・ライブラリーが生涯学習におけるアクティブ・ラーニングのための場として機能することは重要な課題であり、全視連研究プロジェクトにおいて研究を進めている「地域のメディアコミュニケーションづくり」「地域メディアセンターのあり方」といったテーマも、アクティブな学びの環境づくりにつながります。本大会の全視連ワークショップにおいては、研究プロジェクトの成果を紹介し、アクティブな学びの環境づくりをどう進めるべきかを考えていきます。	村上 長彦 全視連専門委員長

全体会 11：30～12：15

●開会行事 主催者挨拶 来賓祝辞 各団体功労者紹介

●NHKプレゼンテーション

番組制作者より、NHK for School の内容と制作コンセプト、教育活用におけるポイント等について、紹介します。

パネルディスカッション 14：30～16：00

大会コーディネーター



堀田 龍也
東北大学大学院



稲垣 忠
東北学院大学

「深く学ぶ子供の姿とメディア・ICTの役割
～次期学習指導要領をめくって～」

次期学習指導要領で目指している「深い学び」とは、子供たちのどのような姿に現れるのでしょうか。その際、メディア・ICTはどのように役立つのでしょうか。学識経験者、学校現場、メディア関係者を代表するパネリストが意見を交わしながら、大会テーマに迫ります。

第53回「教育の近代化展」視聴覚教材・機材展示会 & 抽選会

9：00～17：00

場所：東北学院大学ホーイ記念館3階

電子黒板・実物投影機・プロジェクター・デジタル教科書等、最新のICT教材・機材が展示されます。16時30分からは、協賛各社の提供による豪華教材・機材が当たる抽選会が実施されます。

実践発表 (a : 13:00 ~ 13:35 / b : 13:45 ~ 14:20)

放送番組や関連動画クリップ、ICT機器・教材を活用した実践発表を基に、参会者、講師と共にそのよさや課題について検討します。18のプレゼンテーションから時間帯ごとに1つを選んで、2つ見て回ることができます。

NO	テーマ	講師	発表者	内容
1	新たな ICT 教育へ	舘 秀典 東京福祉大学	a 西下 義之 品川区立京陽小学校	本校で行っている、プログラミング教育の実践について報告する。プログラミング教育は、学習指導要領の改訂により、2020 年度より小学校でも必修化される。京陽小学校では、コンピュータプログラミングを学習に取り入れ、4 年目となった。各学年・教科での活用の事例について紹介する。
			b 住川 泰希 仙台市立向陽台中学校	計測・制御の授業にて、プログラミングによる問題解決に取り組ませた。『Why!? プログラミング』で言語を理解し、掃除ロボットをモデルにして、目的に応じてアルゴリズムを最適化する必要性について理解を深める。
2	幼稚園・保育園での放送・メディア活用	松河 秀哉 東北大学	a 小林 祥子 大阪府富田林市立富田林幼稚園	『お話でてこい』のラジオ聴取を通して、思ったことや感じたことを交流する楽しさを味わってほしいと思い取り組んできた。継続聴取してきたことで聴く姿勢に変化が見られ、ラジオ聴取を楽しみにしたり、イメージを広げて表現する楽しさを味わったりすることができた。また、ラジオ聴取後の話し合いでは、友だちの話をしていることに関心をもって聞き、自分とは違う感じ方があることを知る機会になっている。
			b 佐藤 光枝 聖霊女子短期大学 付属幼稚園・保育園	0・1・2 歳児一人一人にとって“みる”“きく”の体験から“表現したくなる”ことはどのようにつながっているのだろうか。『いないいないばあっ!』の視聴をひとつのきっかけとして、子供の感性の育ちと、生活を共にする大人の支えの在り方を探る。子供同士、親子、そして保育者が一緒に楽しみ、豊かなかかわりの育ち合い また一人一人可能性の芽をばくむメディアとの付き合い方を考える。
3	深い学びを促すタブレット端末活用	中川 一史 放送大学	a 郡司 竜平 北海道札幌看護学校	タブレット端末を活用して自分たちで『ストレッチマンV』を視聴したり、学習活動を映像として残せる学習環境を設定し、自ら課題を見付け、課題解決に向けてくり返しストレッチに取り組んだりする学習を構成した。自分たちで撮影した映像から活動を言語化し振り返ることで、自ら課題に向き合い、他者と役割分担しながら試行錯誤する力が育ってきている。
			b 石井 里枝 仙台市立錦ヶ丘小学校	家庭科の学習を知識や技能を習得するだけでなく、日常生活での実践につなげるため、単元をプロジェクト学習に構成した。プロジェクトに取り組む必要感を高めるため、NHK for School『カテイカ』を視聴したり、タブレット端末を活用して個々の課題意識に寄り添った情報収集や編集・発信ができるようにしたりした。このことで、習得した技能の活用を促し、目的に応じた工夫や実践につなげることができた。
4	情報活用能力の育成を図る ICT 活用	小林 祐紀 茨城大学	a 佐竹 直人 仙台市立六郷小学校	『未来広告ジャパン!』の番組や動画クリップを活用し、「物事を多面的に捉える」ための学習指導の在り方について模索した。タブレット端末を活用し、グループで異なる動画を分担視聴する活動を取り入れたり、『しまった!』の視聴を継続したりしながら、収集した情報を整理し、自分の考えとして再構成する情報の「編集力」の高まりを目指して実践を行った。
			b 田中 啓介 川崎市立有馬小学校	『しまった!～情報活用スキルアップ～』を活用して、情報活用能力を育成する実践を行った。集めた情報や自分の考えなどを思考ツールで整理・分析したり、効果的にまとめたりする力を身に付けることを目指した。情報活用スキルと一緒に、キーボード入力等の ICT スキルや国語辞典の活用といった指導をすることで、子供たちが主体的に学ぶ姿が育まれた。
5	番組を使った「考え、議論する」道徳	高橋 純 東京学芸大学	a 上森 慎詞 北海道旭川市立東光小学校	『時々迷々』を活用し、道徳的判断力の育成を目指した。「きみならどうする?」をキーワードに、主人公が葛藤する場面で、自分ならどうするかを考え、その判断について議論する中で、判断の根拠となる道徳的価値について理解を深めることができた。
			b 伊藤 圭一 青森市立岡井小学校	『いじめをノックアウト』『ココロ部!』とタブレット端末を活用した道徳科における対話的で深い学びを通して、生きて働く道徳性の育成を目指した。映像資料から問いをつくり、多様な考えに触れながら議論する中で、子供たちは価値理解に基づく判断をしたり、自分の見方や考え方を深めたりして実践意欲が高まってきた。
6	考えを深める放送番組の活用	黒上 晴夫 関西大学	a 武井 三也 横浜市立鶴志田緑小学校	『さんすう刑事ゼロ』の活用を通して、学習した内容を振り返りながら、日常の事象を数学的に処理する数学的活動を行った。そうすることで、日常生活の事象を算数と結びつけ、数理的に捉え直したり、処理したりする経験を積み、より算数を身近に感じ、他の日常の事象も数学的に捉えなおすなど、学習した内容を基に考えを深める姿が見られた。
			b 佐藤百合子 山形県鶴岡市立あさひ小学校	『未来広告ジャパン!』の活用を通して、課題に即した情報を取得し、協動的に課題追究する姿を目指した。教科書や資料集では知り得ない動く映像は、児童の興味関心を高め主体的な学習活動につながった。また情報を基に話し合い活動を行い、学習をまとめたり生活と結び付けて考えたりするなどして、学びを深めることができた。
7	メディア活用を効果的に位置付けたカリキュラムの作成	堀田 博史 園田学園女子大学	a 箕岡 徹 広島市立川内小学校	『しまった!～情報活用スキルアップ～』等の番組を生かした、総合的な学習の時間のカリキュラムを作成した。グループごとの課題を解決するために行った、地域の方へのインタビューやインターネットを用いた情報収集では、番組で学んだポイントを生かして活動することができた。このような学びを通して、情報を整理、活用して、伝える力が伸長した姿を報告する。
			b 秋元 裕子 秋田県八峰町立峰浜小学校	NHK for School を生かして、問題解決学習各段階での活用を試み、理科カリキュラムを作成した。直接体験の実験・観察にプラス1(ワン)導入していくことで、受け身だった子どもがアクティブに学習を進めるようになり、学力が底上げされた。教師も気軽にメディアを活用して実践するようになった。
8	高等学校における ICT 活用	山下 学 宮城県教育庁	a 竹山 仁 岩手県立盛岡南高等学校	今回の授業実践では、高等学校普通科における情報の科学的理解、とりわけプログラミング教育、生徒のプログラミング的思考の育成のあり方を紹介する。『NHK 高校講座』『社会と情報 プログラミングに挑戦』を授業の導入として活用し、フローチャートのしくみやアルゴリズムについて実際に生徒自身がプログラミングをしながら学習していく授業実践について研究したものである。
			b 鈴木 理恵 仙台城南高等学校	本校が ICT 教育に取り組み始めて 5 年目となる。ICT 活用の有用性とともに、課題についても見えてきた。生徒が一人 1 台タブレットを所有し、学びのツールとして活用している様子を伝える。また、授業の中でどのようなねらいを持ち、どのように活用しているのか、生徒の変容も含めて話す。
9	視聴覚メディア活用の現状と成果	村上 長彦 全視連専門委員長	a 岩淵 忠徳 岩手県教育委員会	東日本大震災津波発災の翌月から実施してきた「映写ボランティア派遣事業」は、視聴覚教材のもつ娯楽性や芸術性などを十分に生かし、被災地の人々の心のケアやコミュニティの再生に大きく寄与してきた。また、本事業を通じて、沿岸部と内陸部の横軸連携による支援ネットワークが構築され、多様なボランティア活動が展開されてきており、これらの事業を紹介する。
			b 黒澤 良 仙南地域広域行政事務組合教育委員会	宮城県仙南地域における視聴覚メディア（自作視聴覚教材）の活用例について、制作者のお話や教材の編集、実際の現場での活用等を交えながら、説明を行う。また、視聴覚メディアを使った特徴的な事業（あずなびあまつり）についても紹介する。

各会場へのアクセス 会場へはできるだけ公共交通機関をご利用ください。

